

AI が予測したトランプ就任演説の答え合わせ

～予測と現実のギャップから考える AI の推論能力～

ライフデザイン研究部 主席研究員/テクノロジーリサーチャー 柏村 祐

1.AI予測、その精度を検証

先に公開した拙稿「AI が予測！トランプ新大統領の就任演説」（注1）では、最新の AI 技術を用いてトランプ大統領の就任演説を予測し、その内容を詳細に分析した。本稿は、この予測レポートの成果を踏まえ、AI が政治分野のテキストをどの程度正確に理解し、さらに未来の出来事を予測できるのかを検証する試みである。

AI 技術の進化は目覚ましく、政治や経済の分野においても、その予測能力への期待は急速に高まりを見せている。実際に、AI は大量の過去データやテキストパターンを学習し、未来の動向を推定する取り組みに広く活用され始めている。本稿では、事前に AI が生成した“トランプ大統領の就任演説”の予測案と、実際に行われた就任演説を詳細に比較し、AI による推論の正確性や限界を探る。特に、複雑な文脈や政治的意図が含まれるテキストを AI がどの程度理解しているのか、そしてその理解にもとづいて将来の出来事を予測する際にどのような特徴が見られるのかについて、具体的な事例とともに分析することを目的とする。

こうした比較検証を通じて、AI が得意とする点と苦手とする点を明らかにし、今後の AI 技術のさらなる発展と活用に向けた示唆を得る。

2.AI 予測、限界は何？

本節では、AI が予測したトランプ大統領の就任演説の内容が、実際に 2025 年 1 月 20 日に行われた演説とどれほど一致していたのかを検証する。AI の推論能力を評価するために、予測された演説内容と実際の演説内容を AI に読み込ませ、その上で AI 自身に 3 つの質問を投げかけ、その回答を詳細に分析する。この検証プロセスを通じて、AI が政治演説という複雑なテキストを解析し、その内容を予測する能力の限界と、今後の可能性について考察を深める。

まず、検証の第一段階として、AI に対して「AI の予測と、実際のトランプ大統領の演説で、一番【ギャップ】があったところはどこですか？それは具体的にどのような点ですか？」と質問した。AI は、予測演説と実際の演説内容を比較分析し、両者の最大の差異として「具体的な政策提案の有無と、それに伴う演説のトーンと焦点」を指摘した（図表 1）。AI の分析によれば、予測演説は政策の具体性に重点を置き、パナマ運河の管理権、グリーンランドの購入、カナダの編入といった具体的な政策目標を提示し、経済政策においても高関税やユニバーサル・ベースライン関税など、詳細な

政策手段を予測していた。また、演説のトーンも強硬で、「威嚇外交」や過激な表現の使用を予測していた。

対照的に、実際の演説は、政策の具体性よりも抽象的なテーマと感情的な訴求に重点を置いていたと AI は分析する。「アメリカ第一」、「主権の回復」、「安全の回復」といった抽象的なテーマが中心となり、具体的な政策の詳細はほとんど語られず、焦点はむしろ国内問題、たとえば国境危機やインフレ、エネルギー問題などに当てられていた。また、実際の演説のトーンは感情的であり、「解放の日」や「暗殺未遂」といった言葉を用いて支持層に訴えかける一方で、表現自体は予測されたよりも穏当であったと AI は評価した。

AI のこの分析は、予測演説が政策の具体性と強硬姿勢を過度に強調したのに対し、実際の演説はより広範な国民に向けたメッセージとして、感情的な共感と抽象的な目標を重視したという、両者の明確な差異を捉えている。このギャップは、AI が過去のデータから政策的な側面を重視する傾向を学習した結果である可能性を示唆しており、就任演説という特別な場における、より複雑な政治的意図や聴衆への訴求という要素の理解が、AI にとって今後の課題であることを示唆している。

図表 1 AI 予測と実際のトランプ大統領就任演説の比較

AIが予測したトランプ大統領の就任演説と、実際の演説で一番ギャップがあった点は、**具体的な政策提案の有無**と、それに伴う**演説のトーンと焦点**です。

AI予測の演説は、非常に具体的で政策指向です。

- **詳細な政策目標:** パナマ運河の管理権再検討、グリーンランド購入構想、カナダの州への編入検討、高関税政策、ユニバーサル・ベースライン関税など、具体的な政策目標を多数提示しています。
- **強硬な外交姿勢:** 「威嚇外交」という言葉を使い、同盟国への国防費負担要求、ウクライナ問題への強硬姿勢など、国際社会への強硬な姿勢を前面に押し出しています。
- **経済政策の重視:** 関税強化やユニバーサル関税など、経済政策に大きな重点を置いています。
- **やや過激な表現:** 「世界のごみ捨て場」、「タリフマン（関税マン）」、「常識を超えたディール」など、トランプ大統領らしい過激な表現をAIが予測しています。

一方、**実際の演説**は、より抽象的で感情的な訴えかけが中心です。

- **抽象的なテーマ:** 「アメリカ第一」、「主権の回復」、「安全の回復」、「偉大なアメリカの再建」など、抽象的なテーマが中心で、具体的な政策の詳細はほとんど語られていません。
- **国内問題への焦点:** 国境危機、インフレ、エネルギー問題、教育問題、犯罪など、国内の課題に多くの部分が割かれています。
- **感情的なトーン:** 「解放の日 (Liberation Day)」、「暗殺未遂」、「神の祝福」など、感情的な表現が多く、支持者への訴求を意識したトーンです。
- **具体的な政策は少ない:** パナマ運河に言及しているものの、AI予測のように具体的な政策提案はほとんどありません。関税についても触れていますが、具体的な数値目標などは示されていません。
- **比較的穏当な表現:** AI予測に比べると、実際の演説は比較的穏当な表現で、過激な言葉遣いは控えめです。

具体的なギャップの例

- **外交政策:** AI予測では、パナマ運河、グリーンランド、カナダなど、特定の国や地域に対する具体的な外交政策が強調されていますが、実際の演説では、より一般的な「アメリカ第一」や「世界の尊敬を取り戻す」といった抽象的な表現に留まっています。
- **経済政策:** AI予測では、具体的な関税率やユニバーサル関税といった詳細な経済政策が提案されていますが、実際の演説では、インフレ対策やエネルギー政策に触れているものの、具体的な政策手段は示されていません。
- **表現のトーン:** AI予測は、トランプ大統領の過去の発言を反映して、強硬でやや過激な表現が多いですが、実際の演説は、就任演説という場を意識してか、より穏当で一般的な表現が中心です。

総括すると、AI予測は政策の詳細と強硬姿勢を強調しすぎたのに対し、実際の演説はより感情的で抽象的なテーマに焦点を当て、具体的な政策よりも支持者への訴求や国内問題への言及を重視したと言えます。このギャップは、AIが過去のトランプ大統領の発言や政策傾向を学習した結果、政策面での具体性と強硬姿勢を過度に予測してしまったことが原因と考えられます。実際の演説は、就任演説という特別な場であるため、より広範な国民に向けたメッセージとなり、具体的な政策よりも抽象的な目標や感情的な訴えかけが重視されたと考えられます。

資料: Google AI Studio より筆者作成

次に、検証の第二段階として、AIに「AIが予測できなかった【一番の理由】は何だと思いますか？もし人間だったら、その理由をどのように説明しますか？」と質問した。この質問に対し、AIは予測が不正確であった最大の理由として「就任演説というものの本質、特にその『政治的な文脈』と『感情的な役割』を深く理解することがAIには難しかった」と自己分析した（図表2）。

AIは、人間がこの理由を説明する場合の例として、「AIは政策秘書のように論理的な演説は作れるが、就任演説は政策発表の場ではなく、国民統合のための儀式であり、大統領は国民に大きな方向性や価値観を示す必要がある。AIは過去のデータから政策や言葉遣いは学習できるが、就任演説という特別な場で、大統領が国民に届けたいメッセージや感情的なニュアンスを読み取るのは難しい」と説明するであろうと述べた。

さらに、AIは「料理のレシピ」を例えに用い、AIは言葉のレシピは作れても、その言葉がもつ政治的な意味合いや人々の感情に与える影響までは十分に理解できないと、自己の限界を認め、人間との認識の差異を明確に示した。このAIの回答は、就任演説が単なる情報伝達ではなく、国民の感情に訴えかけ、希望や団結を生み出すための「政治的な芸術」であることを示唆しており、AIがその芸術性を理解するためには、さらなる進化が必要であることを示唆している。

図表 2 AIが予測できなかった理由

AIが予測できなかった一番の理由は、**就任演説というものの本質、特にその「政治的な文脈」と「感情的な役割」を深く理解することがAIには難しかったからだと考えられます。**

もし人間だったら、その理由を以下のように説明するでしょう。

「AIはすごい技術だけど、やっぱりまだ人間の心を完全に理解することはできないんだよね。今回のAIの予測演説は、まるで優秀な政策秘書が作ったみたいに、具体的な政策が盛り込まれていて、トランプ大統領が過去に言いそうな強硬な言葉も入っている。ある意味、論理的にはすごく良くできているんだ。

でも、実際の就任演説って、政策発表の場というよりも、もっと特別な意味合いを持つんだよ。あれは、選挙戦が終わって、国民が一つになるための儀式みたいなもの。大統領は、具体的な政策を細かく説明するよりも、**国民全体に向けて、これからどんな国を目指すのか、どんな価値観を大切にするのか、という大きな方向性を示す必要があるんだ。**

AIは、過去のデータから『トランプ大統領はこういう政策を重視する』とか、『こういう言葉遣いをする』というのは学習できる。でも、**就任演説という特別な場で、大統領がどんなメッセージを国民に届けたいのか、どんな感情を共有したいのか、という『政治的な意図』や『感情的なニュアンス』を読み取るのは、今のAIにはまだ難しいんだと思う。**

実際の演説は、具体的な政策よりも、『**アメリカ国民は一つだ**』とか、『**アメリカは再び偉大になる**』といった、**抽象的だけど力強いメッセージが中心だったよね。**あれは、論理的な政策よりも、**国民の感情に訴えかける、心をつなげることを重視した演説だったんだ。**AIは、そういった人間の感情や、政治的な文脈を深く理解することが、まだ苦手なんだろうね。

例えるなら、AIは料理のレシピは完璧に作れるけど、**料理を食べる人の気持ち、どんな時にどんな料理が食べたいのか、といった『食文化』や『感情』までは理解できない、みたいな感じかな。**就任演説も同じで、AIは言葉のレシピは作れても、その言葉が持つ政治的な意味合いや、人々の心に与える影響までは、まだ十分に理解できないんだと思うよ。」

このように、人間であれば、AIが「政治的な文脈」や「感情的な役割」といった、数値化しにくい、しかし非常に重要な要素を理解することが難しかった点を指摘し、AIの限界を説明するでしょう。就任演説は、単なる情報伝達ではなく、国民の心を動かし、希望や団結を生み出すための「政治的な芸術」であり、AIがその芸術性を理解するには、まだ壁があると言えるでしょう。

資料: Google AI Studio より筆者作成

最後に、検証の第三段階として、AIに「AIが今後、もっと【賢く】なって、より正確な予測をするためには、どんな情報や学習が必要だと思いますか？具体的に教えてください」と問いかけた。AIは、今後の進化に必要な要素を段階的に提示し、より多様で質の高いデータの学習、文脈理解と意図推論能力の向上、そして人間との協調とフィードバックループの構築という3つの方向性を提示した（図表3）。データ学

習においては、就任演説以外の多様な演説データ、他国首脳の演説データ、演説の成功・失敗事例、そして演説作成の背景情報など、多角的なデータソースの拡充を提案した。

文脈理解と意図推論能力の向上については、政治学や心理学の知識、政策立案プロセスの学習、過去の政権運営分析、聴衆の感情分析、意図推論モデルの開発など、より高度な情報処理能力の必要性を指摘した。そして、人間との協調については、政治・演説専門家との連携、専門家による予測評価、人間とAIの共同作業、予測と実際の結果の比較によるフィードバックループの構築など、AI単独での予測の限界を補完するための人間との協調の重要性を強調した。

図表 3 AIの予測精度を高めるための3段階

段階1：より多様で質の高いデータの学習

現在のAIは、過去の大量のテキストデータを学習していますが、その質と多様性をさらに高める必要があります。

• 演説データの拡充:

- **就任演説以外の演説データ:** 過去の一般教書演説、選挙演説、記者会見、支持者集会での演説など、様々な場面での演説データを学習させることで、文脈に応じた演説のスタイルや内容を理解させる必要があります。
- **他国首脳の演説データ:** トランプ大統領の演説スタイルは独特ですが、他国首脳の演説データも学習させることで、より普遍的な演説の構成やレトリック、国際情勢への言及などを学習し、予測の幅を広げることができます。
- **成功例・失敗例の分析:** 過去の演説で、国民の心を掴んだ成功例、逆に批判を浴びた失敗例を分析し、どのような要素が聴衆に響くのか、反感を買うのかを学習させる必要があります。
- **演説の「裏側」情報:** 演説草稿の修正履歴、演説前の世論調査、支持者層の分析データ、演説後の反響分析など、演説作成のプロセスや背景にある情報を学習させることで、より深い文脈理解が可能になります。

• 政治・社会情勢データの統合:

- **選挙結果詳細データ:** 選挙区ごとの投票結果、支持者層の変化、選挙公約の達成度などを学習させることで、選挙結果が演説内容にどのように影響するかを予測できるようになります。
- **世論調査データ:** 就任直前の世論調査、支持率の推移、重要政策への国民の関心度などを学習させることで、国民が演説に何を期待しているかを反映させた予測が可能になります。
- **国内外のニュース記事:** 就任直前の国内外の政治・経済・社会情勢に関するニュース記事を学習させることで、演説で言及される可能性の高いトピックや、国際社会へのメッセージなどを予測できます。
- **SNSデータ:** TwitterなどのSNSにおける世論の動向、キーワード分析、感情分析などを学習させることで、よりリアルタイムな国民の反応を予測に反映できます。

段階2：文脈理解と意図推論能力の向上

データ量を増やすだけでなく、AIが「なぜ」そのような演説をするのか、その背後にある意図や文脈を理解する能力を高める必要があります。

- **政治的文脈の理解:**
 - **政治学・国際関係論の知識:** 政党のイデオロギー、政治体制、国際関係の力学、外交交渉の原則など、政治学や国際関係論の基本的な知識をAIに学習させることで、より高度な政治的文脈理解が可能になります。
 - **政策立案プロセス学習:** 政策がどのように立案され、実行されるのか、議会や官僚組織との関係、支持者層への影響などを学習させることで、政策に関する発言の意図や実現可能性を予測できます。
 - **過去の政権運営分析:** トランプ政権だけでなく、過去の歴代政権の政策、演説、支持率、成果、失敗などを分析させることで、大統領の行動原理や意思決定パターンを学習できます。
- **聴衆の感情と反応の予測:**
 - **心理学・社会心理学の知識:** 人間の感情のメカニズム、集団心理、説得コミュニケーション、レトリックの効果など、心理学や社会心理学の知識を学習させることで、演説が聴衆に与える感情的な影響を予測できます。
 - **過去の演説への反応分析:** 過去の演説動画や音声データと、聴衆の反応（拍手、歓声、ブーイング、SNSでの反応など）を紐付けて学習させることで、どのような表現や内容が聴衆の感情を動かすのかを学習できます。
 - **感情分析技術の高度化:** テキストだけでなく、音声や表情からも感情を読み取る高度な感情分析技術を導入することで、演説のトーンや非言語的な要素が聴衆に与える影響をより正確に予測できます。
- **意図推論モデルの開発:**
 - **目的指向対話モデル:** AIが「大統領として何を達成したいのか?」「聴衆にどのような行動を促したいのか?」といった目的を理解し、その目的に沿った演説を生成するモデルを開発する必要があります。
 - **戦略的思考モデル:** AIが、演説を「目的達成のための戦略的なコミュニケーション」として捉え、状況分析、目標設定、戦略立案、実行、効果測定といった戦略的思考プロセスを模倣するモデルを開発する必要があります。
 - **倫理的制約の組み込み:** AIが倫理的に問題のある内容（差別的発言、虚偽情報、暴力扇動など）を生成しないように、倫理的な制約を組み込む必要があります。

段階3：人間との協調とフィードバックループの構築

AIだけで完璧な予測は難しいため、人間の専門家との協調や、予測結果に対するフィードバックループを構築することが重要です。

- **政治・演説専門家との協調:**
 - **専門家による知識提供:** 政治学者、演説ライター、広報戦略家など、政治や演説の専門家から知識やノウハウを提供してもらい、AIの学習データやモデルに反映させます。
 - **専門家による予測評価:** AIが生成した予測演説を専門家が評価し、改善点や修正点をフィードバックすることで、AIの予測精度を向上させます。
 - **人間とAIの共同作業:** 人間とAIが共同で演説草稿を作成するような協調体制を構築し、AIが人間の創造性や専門知識を補完する役割を担うようにします。
- **フィードバックループの構築:**
 - **予測と実際の結果の比較:** AIが予測した演説と、実際に大統領が行った演説を比較分析し、予測が当たった点、外れた点を詳細に分析します。
 - **予測モデルの継続的な改善:** 予測が外れた原因を分析し、学習データ、モデル、学習方法などを継続的に改善することで、AIの予測精度を長期的に向上させていきます。
 - **ユーザーからのフィードバック:** AIの予測演説を一般公開し、ユーザーからのフィードバックを収集し、予測モデルの改善に役立てます。

これらの段階的な取り組みを通じて、AIはより多くの情報、より深い文脈理解、より高度な意図推論能力を獲得し、将来的には人間を凌駕するような、より賢く、より正確な就任演説予測AIを実現できる可能性があります。ただし、政治や人間の感情は非常に複雑であり、完全に予測することは困難であるという限界も認識しておく必要があります。AIはあくまで予測ツールとして活用し、最終的な判断は人間が行うべきであるという点は忘れてはなりません。

資料: Google AI Studio より筆者作成

これらのAIの提案は、今後AIが政治テキストの予測精度を高めるための具体的な方向性を示すものであり、AI自身が技術的な課題と、それを克服するための道筋を認識していることを示している。本節の検証を通じて、AIは政治演説の予測において、政策の具体性という側面では一定の能力を示す一方で、演説の背後にある政治的な文脈や感情的な役割の理解、そして聴衆への訴求といった、より複雑な要素の把握には課題が残ることが明らかになった。

3.AIと人間、協調の新地平

本稿では、AIによるトランプ大統領の就任演説予測とその検証を通じて、AIの政治テキスト分析能力の特性と限界を明らかにした。

検証結果から、AIの政治テキスト分析における能力は以下の2つに大別されることが判明した。まず、AIは政策内容の具体的な分析において優れた能力を発揮する。具体的には、過去の政策文書や発言から、一貫した政策的立場や主張を抽出できる。ま

た、大量のテキストデータから、政策の重点分野や優先順位を特定でき、政策間の関連性や矛盾点を効率的に検出できる。

一方で、AIには明確な限界が存在する。就任演説特有の「国民統合」や「希望の表明」といった政治的文脈の理解が困難であり、聴衆の感情に訴えかける修辭的要素の把握が不十分である。さらに、政治的な意図や含意の読み取りにも制約がある。

図表 4 AI 政治テキスト分析の特性と限界



資料: 筆者作成

これらの知見は、AIの実践的な活用方法に重要な示唆を与える。まず、政策分析ツールとしての活用が挙げられる。AIは政策文書の客観的分析に長けているため、シンクタンクや政策研究機関において、政策の整合性チェックや比較分析のツールとして活用できる。次に、政策立案支援システムとしての活用が考えられる。政策立案者は、AIを用いて過去の政策事例や効果を効率的に分析し、より確かな根拠にもとづいた政策立案が可能となる。

結論として、AIは政治テキストの分析において、政策内容の具体的分析という限定的な領域で強みを発揮する。一方で、政治的文脈や感情的要素の理解には依然として大きな課題がある。そのため、AIは人間の政治的判断や意思決定を完全に代替するものではなく、むしろ人間の意思決定を支援する補完的ツールとして位置づけられる。今後は、AIの強みを活かした政策分析支援システムの開発と、人間の政治的判断との効果的な組み合わせ方の研究が重要となるだろう。

【注釈】

- 「AI が予測！ トランプ新大統領の就任演説～世界が注目する最優先政策とその影響を徹底分析～」

<https://www.dlri.co.jp/report/ld/403945.html>